

一般質問通告書(平成 27 年 3 月定例会)

氏 名・質問事項・答弁先	質 問 要 旨
<p><b>1 3番 村上 和子</b> 1 認定こども園の設置など新制度の 取り組みは  (町 長)</p>	<p>町内には高田幼稚園、西保育所、わかば愛育園、中央保育所がある。子ども子育て支援新制度のもとで地域の幼稚園と保育所が学校教育と保育の機能、地域での子育て支援を総合的に提供する機能を備え、認定基準を満たす施設は知事からの認定を受けることができ、「認定こども園」として運営することができる。認定こども園は「保護者が働いている、いないに関わらず利用できること」「保護者の就労状況が変化しても継続して利用できる」「認定こども園に通っていない子どもの家庭も含め、子育て相談や親子の集いの場などの子育て支援を受けることができる」施設であり、保護者も幅広い選択ができる環境が必要だと思われる。町としてどのように認定こども園について取り組むのか伺う。</p>
<p><b>2 「早期発見・早期治療」を認知症 対策の最優先課題に</b>  (町 長)</p>	<p>認知症を発症している 65 歳以上の高齢者は 2012 年時点で約 462 万人と推計されている。しかし、一口で認知症と言ってもその原因はいろいろなものがあり、中には治すことができる認知症もある。認知症は治らないと一概に決めつけず、治る認知症をなるべく早く見つけ出し、正しい治療を行うことが大切だと考える。認知症の半数を占めるアルツハイマー型は治療薬もあり、早い段階で服用すれば進行を食い止めることができる。</p> <p>また、日本光電の「TDAS」という認知症の検査機器では、定期的に検査することで早期発見が可能であるという。財政的な問題もあるものの、町も将来的には 65 歳以上の高齢者のうち 10 人に 1 人が認知症になるという状況が見えており、認知症が進行すれば介護が必要となり、家族の負担は計りしれない。早期発見・早期治療により進行を遅らせ、治るとすれば、高齢者の尊厳が保たれ穏やかに過ごすことができる。町としては第 6 期高齢者保健福祉計画の中にも認知症対策が盛り込まれているが、中でも認知症対策として「早期発見・早期治療」を最優先課題として取り組んではどうか。また、具体的な対策はどのように行っていくのか。</p>
<p><b>2 10番 中澤 良隆</b> 1 第 6 次産業化の現状と今後の取 組みについて  (町 長)</p>	<p>「平成 27 年度執行方針」及び「第 7 次農業振興計画」において 6 次産業化の推進に取り組むとあり、具体的な推進内容について次の点を伺う。</p> <p>(1) これまでの取り組み経過と今後どのような計画、方針で事業を推し進めようとしているのか。また、6 次産業化・地産地消法に基づいた総合事業計画に認定された事業者数は。</p> <p>(2) わが町の 6 次産業化は、基幹産業である農業が中心となると考えるが、具体的に「農畜産物」とは</p>

	<p>何を想定し、推し進めようとしているのか。従来から生産しているものを想定しているのか。または、その他の新たな作物づくりに挑戦しようとしているのか伺う。</p> <p>(3)6次産業化に向けての行政の果たす役割とスタンスは。</p>
<p>2 人口減少社会に対応した町づくりについて (町長)</p>	<p>日本創成会議が発表した人口推計によると、全国1,800市町村の49.8%に当たる896自治体が2040年には消滅する可能性があるという大変衝撃的なものであった。</p> <p>わが町においても人口減少は避けて通れない事象と受け止め、いつまでも活力のある町であるためにも、早急に対策を講じなければならないと考える。そこで、人口減少社会に向かっての町づくりについて次の点を伺う。</p> <p>(1)日本創成会議における2040年の上富良野町の推計は。また、町長の見解は。</p> <p>(2)わが町の人口減少の主な要因と影響は。</p> <p>(3)人口減少社会に対応する具体的な施策の考えとその進め方は。</p>
<p>3 <b>4番 米沢 義英</b> 1 地域包括ケアシステムについて (町長)</p>	<p>地域包括ケアシステムとは、高齢者が地域で安心して暮らしていくために「住まい、医療、介護、予防、生活支援などのサービスが切れ目なく提供される体制」と定義されている。これは、今後の高齢化の進展や独居、高齢者世帯、認知症高齢者が増大している中で、国、自治体が取り組むべき課題とされ、計画の策定が求められた。次の項目について伺う。</p> <p>(1)自治体の関係機関を結び付ける役割を担うと考えるが、町には医療と介護、福祉を統合した仕組みづくりを担当する部署が必要であり、「地域ケア会議」の体制は十分とはいえない。今後の対応について伺う。</p> <p>(2)地域ケアシステムは単に制度をつくれれば済むという問題ではない。自治会や地域のボランティアの参加も求められ、医療も介護も人材が育たない限り成り立たないと考えるが、今後の対応について伺う。</p> <p>(3)町立病院を始めとした医療機関との連携が必要になると考えるが、今後の対応について伺う。</p> <p>(4)介護予防、生活支援サービスの費用の抑制が求められているが、その内容は。また、費用の抑制は予防重視の方針に反するのでは。</p> <p>(5)2020年までの後期高齢者、介護予防事業費の伸び率について伺う。</p>

<p>2 保育料の軽減について (町 長)</p>	<p>町の保育料の設定は、第1子が就学していると第2子目の保育料は半額にならない。他の自治体では、子育て支援策として保育料の軽減を実施している。以前にも議会で取り上げてきたが、どの様に検討しているのか伺う。</p>
<p>3 観光振興について (町 長)</p>	<p>観光振興計画が策定され、観光人材育成などの事業も展開されてきた。最近の観光は自然を体感できる体験型の観光が喜ばれている。町には誇れる自然や農業を始めとした産業が多くあり、また、春、夏、秋、冬と四季を体感できる環境が整っている。しかし、十分に活かされているとは言えない。今後、冬期間における観光の在り方を十分に検討するなど、地域と連携して体験観光の充実を図るべきと考えるが、今後の対応について伺いたい。</p>
<p>4 社会教育総合センターの使用について (教育長)</p>	<p>住民の多くが運動を通して健康の維持に努め、町の体育館を利用する人も増えている。しかし、冬期間や悪天候のときは、屋内を利用することが多くなり、利用者からは健康対策のためにも体育館の無料開放を求める声がある。健康志向の高まりのなか、住民の健康対策のために体育館の無料開放の期間を設けている自治体もあり、利用者から喜ばれていると聞く。町においても、ジョギングコースの無料化や無料開放の期間を設けるなどの検討が必要と考えるが、今後の対応について伺う。</p>
<p>5 児童の放課後対策について (教育長)</p>	<p>放課後スクール、クラブの開設は多くの保護者や児童にとっては大切な居場所となっている。しかし、この4月からは西小学校で実施していたクラブが上富良野小学校へ統合される。西小学校で引き続き開設することが大切だと考えるが見解を伺う。</p>
<p><b>4 7番 中村 有秀</b> 1 住居表示板の更改整備等について (町 長)</p>	<p>住居表示に関する条例により、町に「街区表示板」と「住居番号表示板」が設置されて30数年が経過している。歳月の経過とともに、風雨雪及び日当たりの関係で「街区表示板」及び「住居番号表示板」に表示の消滅・汚損が見られ、平成17年度と平成18年度に更改整備された。</p> <p>そのときに更改されなかった表示板も含めて、更改の必要な表示板がある。「四季彩の町かみふらの」に相応しい整然とした区画番号表示された街にするためにも「街区表示板」と「住居番号表示板」の実態調査とその整備実施について見解を伺う。</p>
<p>2 日東会館のバリアフリー化と施設の改善について (教育長)</p>	<p>上富良野町集会施設の設置及び管理に関する条例により、地域住民の学習・保育・休養及び集会に供することを目的として、東中会館・日東会館を含めて13の集会施設がある。また、上富良野町公民館条例第3条に「上富良野町公民館に分館を置く」とあり、日東会館は日の出分館と位置付けられている。</p> <p>日東会館は、昭和57年12月に竣工されてから33年が経過しバリアフリー化されていない。しかし、建物本体はコンクリート造りであるため、町の洪水ハザードマップや十勝岳火山防災マップによると</p>

	<p>避難所に指定されている。日東会館の利用は、日の出住民会（119 世帯）と本町住民会（409 世帯～本町 4 丁目及び本町 5 丁目町内会が主に）であるが、老人クラブ関係も「日の出友の会」（会員 67 名）と「本町住民会四ツ葉老人会」（64 名）が毎月利用しており、高齢者の利用率が非常に高い。また、葬儀等にも使用している。以上のような利用実態の中で、下記について早急に措置すべきと判断されるが、具体的な実施について伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 入口前及び玄関内のスロープの設置</li> <li>(2) 入口前階段の 1 段目蹴上げの改修</li> <li>(3) 館内に手摺の設置</li> <li>(4) 座布団の更新</li> </ol>
<p>3 日の出排水路の早期改修について (町 長)</p>	<p>平成 23 年 9 月 2 日～3 日の集中豪雨により、町内全域に大きな被害を受け、被害総額は 4 億 3,380 万円と議会で報告された。</p> <p>平成 23 年 9 月 4 日付の北海道新聞には「雨量上富良野 222 ミリ、積丹 221 ミリ」との見出しで報道され、集中豪雨の雨量がいかに多かったかがわかる。本町住民会地域も、日の出排水路の関係でいまだかつてなかった水害に襲われたが、町・消防・地域の人々の支援と協力によって、被害防止の「土のう」の設置や水路の掘削等により被害は最小限に止めることができた。その「土のう」設置は「1,590 袋」にも及んだが、なんとか大きな被害は免れた。あれから 4 年が経ち、地球温暖化の影響か全国各地で異常気象によると思われる集中豪雨・豪雪の報道を聞くたびに、町民の安心と安全のために日の出排水路の早期改修について、町長の見解を伺う。</p>